

I

遙かなる 二の山脈^{ヤマノ}
 北上は 北の動脈
 ここみすのくの 大いなる地に
 そびえ立つ あかぎの塔
 水沢 水沢 ああ水沢
 あれらが母校 水沢

II

きらり星 先達あふ水
 生かさばや 弦を傳統
 眞の善と美 ほげしく求め
 高鳴るよ 若き胸ぬち
 水沢 水沢 ああ水沢
 あれらが母校 水沢

III

駒ヶ嶽 四季のあけぼの
 その高き 雲の象徴
 日よ輝けよ 霞の徽章に
 あれらみよ 未来を肩はん
 水沢 水沢 ああ水沢
 あれらが母校 水沢

草野 心平 直筆



応援歌

第一応援歌

作詞 阿部庄一郎

- 一、霜忘れたる玉ゆらに 春よみがえるときめきや
広野に燃ゆる青草の 桃李一時に花咲きて
我等の選手いまここに 勝って帰ると集いたり
- 二、薫風峰を吹き渡り 希望高なる雄叫びや
郭公空にこだまして 天地の緑きわまれば
我等の選手いまここに 勝って帰ると揃いたり
- 三、空紺青に澄み渡り 収穫をはかる喜びや
野面になびく秋草に 白雲影を落す時
我等の選手いまここに 勝って帰ると並びたり
- 四、雪のしじまにとざされて 炬火に集る楽しさや
影深々と銀嶺の 波打つ空を望みつゝ
我等の選手いまここに 勝って帰ると出て立ちぬ

第二応援歌

作詞 高橋 正男・鈴木 慧
補作 高橋 力

- 一、あゝみちのくに名の高き 大鐘の土踏みしめて
鍛えし腕の高鳴りを いざ試さんや今ここに
- 二、大鐘の丘血に燃えて 門出の君に捧ぐるは
我らが胸に描きたる 夢の象徴雪の旗
- 三、二重の線に雲の湧き 雄叫び高く天をつく
進め我らが若人よ 九百の魂を焦すまで
- 四、奥羽の峰を睥睨し 北上の流れかえりみて
出でよ勝利の街道に 学宿の夢抱きつゝ

第三応援歌

作詞 杉山 清
作曲 小笠原勇美

- 一、彼さかしくも逸れるか 暁闇遠くうち揺りて
かなたにおこる闇の声 起て水高の若き子よ
錬磨の技を競うべき 待望の日は明けんとす
- 二、伝統未だ若けれど 歴史を創る選手らが
決意は眉宇に溢れたり 見よ凜烈の朝風に
不屈の意気を示さんと 水高の旗今ぞ立つ
- 三、それ正を履み恥を知る 臥牛が庭の訓えをば
我らが血にぞ伝えたる 聞け颯爽の旗鳴りを
仰ぎて誓う我らの夢 この旗の名を汚すまじ
- 四、時こそ来たれいざ友よ 驕慢の敵何かある
覇権は今ぞ奪うべき 打てとうとうの陣太鼓
溢るる力からむけて 諸声高く寄せんかな

第四応援歌

作詞 荻田 清
作曲 三原 祐一
小笠原勇美

- 一、大空飛び交う 若鷲に 我等が意気は 輝きて
滾る血潮の 若人が 汗と泥とに 塗れたる
嗚呼 栄光は誰が為ぞ 溢るる闘志 傾けて
水沢 水沢の力 照り駆くる
- 二、大地揺るがす 雄叫びに 我等が闘志 燃え滾る
高鳴る歓喜の 若人が 力の限り 戦える
嗚呼 栄光は誰が為ぞ 溢るる情熱 傾けて
水沢 水沢の力 照り駆くる
- 三、荒海渡る 戦士等は 我等が期待 担いたる
闘魂燃ゆる 若人が 試練の庭に 今咲ける
嗚呼 栄光は誰が為ぞ 溢るる気力 傾けて
水沢 水沢の力 照り駆くる

水高讃歌

作詞 阿部庄一郎

- 一、見はるかす大グラウンドに
朝霧の陽にはれゆけば
今日一日溢るゝ命
一閃の飛球を追いて
青空に羽ばたかんかな
あゝ水高 水高讃歌
- 二、そゝりたつジムナジウムに
高原の風通いきて
若鹿にみなぎる力
胸ふかくまりをいだきて
一躍をあらそわんかな
あゝ水高讃歌
- 三、寒熱の試練に耐えし
面映えて意気高らかに
こゝに立つ吾等の選手
一千の与望をにない
その錬磨試みる日ぞ
あゝ水高 水高讃歌

水高音頭

作詞 高校第四回生有志

- 一、春の胆沢の若葉のかげでよ
ホラかげでよ
男子歌およ男子歌およ
ホラ高らかにホラ高らかに
- 二、服はボロでも臥牛ヶ丘によ
ホラ丘によ
天下取る身が天下取る身が
ホラ九百人ホラ九百人
- 三、桜片手に月かげあびてよ
ホラあびてよ
おいらめぐるよおいらめぐるよ
ホラ花が散るホラ花が散る
- 四、クヌギ林に咲き出た菊をよ
ホラ菊をよ
助け育てよ助け育てよ
ホラ美しくホラすこやかに

逍遙歌

(逝く春)

作詞 阿部庄一郎

- 一、胸に描きし甘き夢 日々に破れて傷つける
重たき心抱きつつ 暮れ行く空に駒ヶ峰を
仰ぎて独りそぞろげば あわれ悲し逝く春の
ひとひら散らし梨の花
- 二、胸に描きし清き夢 日々に破れて濁りたる
つめたき心抱きつつ 暮れ行く空に北上を
望みて独りさすらえば あわれ悲し逝く春の
ほのかに浮かぶ三日の月
- 三、胸に描きし高き夢 日々に破れてむしばめる
むなしき心抱きつつ 夕べを騒ぐげんげ田を
さまよいおればほのぼのと
またさしそめし希望かな
ああ若き日の希望かな

優勝歌

- 一、戦い勝てりうま酒を
くみてたえん君が名を
光涼しく月照れば
よろこびに満つ
龍ヶ丘
- 二、戦い勝てり我が春を
共にたたえん水高の
そよ吹く風を胸にうけ
勝利に集う
龍ヶ丘

concentration

目次

●題字 及川 禮助 筆(昭和二七卒)

校舎正面写真	3
校舎の全景	4
水高の行事	8
水高の四季	10
ご挨拶	百周年記念事業協賛会会長 及川源悦郎 12
式辞	校長 佐藤成人 16
告辞	岩手県教育委員会委員長 八重樫 勝 18
御祝と御礼	前校長 伊藤 勝 20
校歌	22
応援歌	24
水高讃歌・水高音頭・逍遙歌・優勝歌	26
沿革 図	30
実科高等女学校時代	——明治四四年～大正一五年—— 31
高等女学校時代	——大正一五年～昭和二三年—— 51
高等学校時代	——昭和二三年～平成二年—— 91
高等学校八〇周年その後	——平成三年～平成二二年—— 127
部活動紹介	137
大学進学実績の推移	174
座談会Ⅰ 女学校時代の思い出	176
座談会Ⅱ 昭和から平成	186
過去の座談会抄(八〇年誌・九〇年誌から)	196
百人の先輩	219
創立百周年記念事業の概要	288
SSH特集	301
同窓会	319
PTA・教育振興会	323
略年表	329
歴代職員名簿	373
資料提供者等一覧	389
編集後記	391